

幼稚園でよい子に育てる要綱

—— 躾けの方向き方法 ——

みどり會研究部案

みどり會研究部では、國民學校案實施に先立つて、大いに保育内容の改善に努めるべく、その第一歩として躾の問題を取りあげて來ました。即ち昨秋から毎月一回十五六名の生活訓練研究部員が母校に集つていろいろの材料を持ち出し、實際の保育に照してまとめ上げたものが次の通りでございます。どうぞよろしく御批評御指導下さいませ願ひいたします。

(一)感謝のもてる子供に

- 1、皇國に生れたことの喜びを感謝の心を持たしめること
- 2、(宮城遙拜、神宮遙拜、國旗掲揚、興亞奉公日の式等を正しく行ふことによつて)。
- 3、神佛に對する心からの躾をつけること(近くの神社、寺院等にお詣りさせて)。
- 4、食前の感謝をさせること。
- 5、お話、映畫等にて自然の恵みを感じ得させること。

(二)協調性のある子供に

- 1、團體遊び、集團遊びを多くさせること。
 - 2、共同製作をさせること。
 - 3、お話、紙芝居等で共同生活の嬉しさ、美しさを感じ得させること。
 - 4、自分だけ一人で仲間はずれになつてゐることは悪いことだを感じさせること。
 - 5、一人の子きもいつもリーダーの位置に立たせないこと。
- (三)自分の事は自分で出来る子供に
- 1、自分の身のまわりのことは、全部一人でさせるやう、
 - 2、「ありがたう」といふ事を躾けること(人から物をもらつた時、借りた時、用事してもらつた時世の中の爲に働いてゐる人々を見る時等すぐこの心が起り言葉が出るやうに)。

家庭も連絡を取つておくこと。

2、自分で出したおもちゃ類は一人で片付けさせること

(おかたづけの時間をゆつくりさせること)

3、必要以上に世話をやかず、子供相當に責任をもたせること(特に家庭と連絡をとり、實踐力を強めること)。

4、少し無理だと思つたことも、全部を手傳はずに幾分の手傳にさめること。

5、時々組全體に反省させて見たり、自治的に訓練すること(特に各幼児で實踐出來易い様に設備しておくこと)

(四) 明朗快活な子供に

1、環境整理をなし、常に明るい環境におくこと。

2、保姆に充分な親しみ、信頼を持たせ、幼稚園生活に安心を與へること。

(五) ねばり強い底力のある子供に

1、一つの仕事を一人で出來るところまで仕上げさせること。

2、種々の場合がまん強さを養ふこと。

3、一人一人の幼児の力をよく知つて、物に對して興味を持たせること。

4、環境整理(あまり玩具等與へ過ぎること氣が散り易く

なる故に、一つの遊びに集注出來るやう整へてやること)。

(六) 子供らしい禮儀作法をわきまへた子供に

1、諸儀式の折、靜かにするやう躡けること。

2、日常生活に必要な挨拶、禮、筆の躡に注意すること(行動の作法と共に言葉の指導、又室内で話す時は大聲をせぬ等、言葉の作法も併せて)。

3、人の話はよく聴き、又人から問はれたら、すなほに返事すること躡けること。

4、食前、食事中、食後の作法を躡けること。

5、友達との交友について躡けること。

6、道を歩く時、乗物に乗る時等の作法をわきまへさせること。

7、人に不快な氣持を與へぬ様、身なり、言葉、其の他に注意すること。

(七) 落ちついた子供に

1、人の話を最後まで聞きこる様習慣づけること。

2、繪本、玩具等、一つの物をしばらくの間あきない様、使用させること。

3、製作の間あまり度々席をはづさぬ様、ある程度の規律を守らせること。

4、出來るだけゆつくりし、はつきさせること。

5、 保姆自身態度を特に注意して落ちついた感じを與へる(一七)。

(八) 責任感の強い子供に

- 1、 自分で出したおもちゃは必ず片付けさせること。
- 2、 當番制、グループ制等を造つて責任感を感じせしむる(一八)。
- 3、 一度止められた行爲を二度させぬ様訓練すること。

(九) 眞面目な子供に

- 1、 保姆の命令は出来るかぎり守らせること(保姆は、はつきりした信念を持つて命令を出すこと)。
- 2、 一度止められた行爲を二度と繰り返さぬ様訓練する(一九)。

(一〇) 工夫想像力のある子供に

- 1、 適當なる刺戟、暗示等を與へて誘導すること。
- 2、 玩具等も注意して與へること。
- 3、 ある程度製作材料を豊富に與へること(むだにせぬ様には注意して)。
- 4、 幼児の興味を引き込む様な保姆の態度が必要である。
- 5、 落ちついて物を觀察する習慣をつけること。
- 6、 作業をつゞけ易い環境におくこと(一々あまりきれいに片付け過ぎぬこと)。

7、 幼児の想像を活かし工夫には賞讃を與へること。

(一一) やさしい 思ひやりのある子供に

- 1、 動植物の飼育栽培をさせること。
- 2、 自由遊びの折の互の關係に注意すること(時には年少、年長一諸に生活させる)。
- 3、 環境整理。

(一二) 寛容性のある子供に

- 1、 自由遊びの折にあまり干渉せぬこと。
- 2、 製作にこせ／＼した細いものを與へぬこと。
- 3、 小さな怪俄等氣に止めさせぬこと。
- 4、 人の動作、言葉等により神經を使はせぬこと(人の悪口、かげ口等を云ふ子供は適當に取り扱ふこと)。

(一三) 機敏な動作の出来る子供に

- 1、 命令をすぐ行動に表はすことを習慣づけること。
- 2、 時々機敏な動作の必要な運動をさせること。
- 3、 食事、作業等、人ミかけはなれておそくならぬ様習慣づけること。

(一四) すなほな子供に

- 1、 必ず命令に従はせること。
- 2、 お話、紙芝居等で良い子供の話をきかせること。
- 3、 自分がわるいと思つたらすぐあやまらせること。
- 4、 保姆は眞實の籠れる眞剣なさとし方をする(二〇)。

(一五) 自己を充分に發表出来る子供に

- 1、個人的に保母を多く語る機會を造つてやること(全部の者が一日に一度は必ず保母と話をすること)。
- 2、他人を通していろいろの話させず、自ら進んで話を持ち出す様誘導すること。
- 3、保育中でも始終發表出来るやうな折を造つておいてやること。
- 4、幼兒の質問に對して親切に答へてやること。

躰の研究に添へる側面的所感

倉 橋 惣 三

- 5、お話、唱歌、遊戯、製作品等一人つゝ發表する機會を造つてやること。

(一六) 審美感のある子供に

- 1、保育室を清楚に整理整頓しておくこと。
- 2、お話、紙芝居等の材料に特に注意すること。
- 3、保母の趣味を高尙に且つ常に豊かならしめること。
(服装等あまりかけはなれた様子をせぬこと)

躰といふさいかめしい様だが、心理的にいふと、つまり、いゝ習慣を形の上に又心の方向へつけてゆくことである。

習慣だから一定の事を繰返さねばならぬ。一定の事といふには、先生が一定の事をさせるさいふ事と共に一定の環境が與へられることもある。例へばその部屋に入ればその部屋らしい環境が一定してゐなければならぬ。丁度我々の家に一定のきまりがある様に。

環境の中でも先生がみんなかさいふことは一番大切であらう。先生はさういふ方針でさいふ様に方法を用ゐる時の外に、一つの環境である。

環境について、少し言ひ過ぎる様な問題の取扱ひかもしれませんが、環境としての先生は、その先生が何をするさいふよりも、そのあり様、あり方がその子供に、大きく影響する。そこで、そのあり様が大切なのです。人間には種々